

平和を願う市民のつどい 開催

共同代表 市川まり子

11月10日(日)午後、第11回平和を願う市民のつどい in ちば「地域でつくる持続可能な社会」を千葉市文化センターセミナー室で開催しました。

始めに、福島映画祭で上演された「浪江ちち牛物語」のDVDを上映。福島原発事故の被災地域に置き去りにされ最後は安楽殺された牛の嘆きを描いた紙芝居を映写し被災地の皆さんが語る映像は、「持続可能でない社会」の現実を痛切に訴えかけました。

基調講演ではSDGs ジャパンの稲場雅紀さんより「SDGs(持続可能な開発目標)とは何か」を語っていただきました。大企業社員の証のようなSDGsバッジの希望に満ちたイメージに反して、SDGsの原動力は「このままでは世界全体が立ち行かなくなるという危機感」であり、現在の需要を満たしながら未来世代に世界を引き継ぐためには「変革」が必要であること、少子高齢化が進み、毎年豪雨災害で多数の死者を出し、格差と貧困が深刻化するなど沢山の課題を抱えているこの国の現実に、「誰一人取り残さない」「最も厳しいところから取り組む」SDGsの精神に立って、市民の行動こそが求められると、激励の言葉をいただきました。

ちばMDエコネットの山田晴子さんの「ともに生きる地域づくり」では、ダウン症の息子さんが地域の小中学校から普通高校へ進学してともに学んだ日々を記録した映画「ひなたぼっこ」の一部を上映し、インクルーシブ教育の推進と、ともに働きともに生きる地域づくりの大切さが語られました。ママの会@ちばの村田マユコさんの「地域で考える平和」では、音楽ライブなど市民にとって楽しいイベントで親しまれている幕張メッセで、2年前に「武器見本市」が開かれ、今年は6月と11月にもう一度(18~20日)開催される事態に、人と人が殺し合い、人々を悲しみに陥れる戦争の道具のトレードショーの開催を見過ごすことは出来ないと、市民が声を上げることの必要性が訴えかけられました。それらのお話を受け、グループごとに今自分に何ができるかを語り合っていました。

台風15号・19号は千葉県各地にも強風・豪雨で甚大な被害をもたらしましたが、グレッタ・トゥーンベリさんの怒りが胸に突き刺さります。もう大人たちに任せておけないと、日本では大学入試への民間英語検定試験導入に高校生たちも反対の声を上げ延期となりました。これからを生きる子どもや若者たちとともに、「持続可能な社会」の実現に向けて声を上げていきましょう。